

編集後記

Journal of I-LISS Japan の第 2 号には、3 本の論文と 2 本の研究ノートを収めることができました。

志保田論文は前号より続くもので、この後編では戦中期という図書館にとって困難な状況における図書館関係者たちの行動が記されています。現代において知的自由に責任を持つ者として、今後自らはどのように行動すればいいか、身をつまされます。村上論文はカナダの公共図書館のガイドラインの分析に留まらず、公共図書館の目標の設定の困難さから、今後公共図書館は何に取り組めばいいか、より図書館が発展するにはどのような方法があるかなどいろいろ考える材料を与えてくれます。瀬戸口論文はインターネットによって社会が分断化していく中で公共図書館の重要性を論じたもので、公共図書館における情報リテラシー教育を具体的にどのように展開すればいいか、改めて考えさせられます。

いずれの論文も、国内に固有の問題についてのみ扱うのではなく、様々な海外の知見を踏まえて論が展開され、国際図書館情報学会の名にふさわしい論文が掲載されていると考えています。

研究ノートは 2 本で、海外へ日本の公共図書館の状況を伝えるものと、海外の図書館の状況を日本へと伝えるものと 1 本ずつ、バランスよく収めることができました。海外の研究者へ日本の図書館の状況、特に日本の図書館の問題点を説明したいときに適した英文の解説が見当たらないことはよくあります。柳論考はそういう状況を埋めるのにとっても意義があり、有用であると考えます。また、山田論考はタイの図書館の紹介の体を取りながらも、“有料の図書館”や“大規模な図書館を優先して建設する方針”など、図書館のあり方について有益な示唆を与えてくれます。もちろん旅行記としても楽しく読め、まだ見知らぬ世界へと思いを馳せ、すぐに旅に行きたいと強烈に思わせてくれます。

最後に、この号から組版のシステムを変更しました。具体的には、今までは業者をお願いしてしたのを、編集委員が L^AT_EX というシステムを用いて組版することにしました。これによって製作の費用を減らすことができるだけでなく、編集期間が短くなることによって、よりタイムリーな論文を掲載することができるようにと考えています。

もちろん投稿は今までどおり、MS Word などの今使われているワープロソフトを用いていただけます。ただ、もしよろしければ、投稿者の方々も L^AT_EX を用いれば、参考文献の参照にも煩わされず、仕上がりを確認しながら原稿を作成することができます。L^AT_EX はフリーソフトウェアでもあります。

合わせて、*Journal of I-LISS Japan*、また継続前誌である *Journal of LISSASPAC JAPAN* の全号が J-STAGE で見られるように準備を進めています。ただ掲載には時間がかかるため、一時的に web スペースに掲載することを予定しています。

(編集委員 岡田大輔)